

平成31年度



白川小だより

第1号

平成31年4月8日(月)

「たくましさ」を育てる ～平成31年度が始まりました～

校長 奥村 哲也

桜の花が咲き誇り、新年度の始まりを祝っているかのようです。ご入学、ご進級、おめでとうございます。

12人の新入生を迎え、全校児童44人で今年度の白川小学校の歩みが始まりました。今年度は「たくましさ」をキーワードに教育活動に取り組みます。どうぞよろしくお願ひします。

さて、先月20日の夜、「学校運営協議会」が行われ、「子ども達にいま必要なことは何か」というテーマで話し合いがなされました。そして、たくさん出た意見が絞り込まれ、「自然の中で培われるたくましさ」が第1位となりました。

また、昨年度、学校経営について様々なご意見をいただきました。多くの方から、子ども達の元気の良さや意欲的に学ぶ姿を褒めていただいた一方、「少人数におけるきめ細かい指導には感謝するが、手厚すぎて子ども達の主体性が育っていないのではないか。」「少人数のため安心して学校生活を送れているが、大きな人数の中で仲間関係を築いていくたくましさ弱いのではないか。」という声がありました。

4月1日の職員会において、今年度は「たくましさ」の育成を大切にしていくことを職員で確認し合いました。その場で私は、「たくましい姿」の具体として、この3月に卒業した子ども達の姿を挙げました。前号で紹介したように、彼らは8の字跳びで400回を超えるという目標を立て、途中で様々な困難があっても、仲間で話し合い、協力して乗り越え、ついに目標を達成しました。この歩みこそ「たくましく生きる姿」だと思います。

中学国語の教科書に大岡信氏の「言葉の力」という随筆があります。なんとも美しい桜色に染まった糸で織った着物を見た大岡氏は、染織家の方から「桜の花が咲く直前のころ、山の桜の皮をもらってきて染める」と聞きます。大岡氏は「春先、もうまもなく花となって咲き出ようとしている桜の木が、花びらだけでなく、木全体で懸命になって最上のピンクの色になろうとしている」と書いています。そういう目で見ると、爛漫と咲いているこの校庭の桜の花にも「たくましさ」を感じずにはられません。

時代は、平成から令和へと流れていきます。子ども達にとってどんな時代になるのでしょうか。将来の変化を予測することが困難な時代に、自らの人生を生き抜いていく「たくましさ」を育ていけるよう、職員一同、精一杯努力をして参ります。

本年度も、ご支援、ご協力をよろしくお願ひします。

